

DⅢ論文

「無洗米」の構造と時相

木村 泰介

要 旨

「無洗米」という新造語がある。これは「洗う必要のない米」という意味だが、従来の造語感覚からすれば、「洗ってない米」のはずである。このような新造語が可能であったのはなぜか。どう理解すればよいのか。この問題を解決するために、「無洗米」という語を「構造」と「時相」の両面で検討してみた。……その結果、この新造語は「構造」の面では従来の「無」を用いる造語法に従っていて問題はないが、「時相」の面で従来の「無」を用いた表現体系を逸脱していることが判明した。さらに、従来の表現体系の中で同じことを表現するには「無洗炊き(米)」とするのがよいということも判明した。

キーワード： 無洗米 無 無の造語法 接頭 相対時

DⅢ.0 問題点

「無洗米」は「洗う必要のない米」という意味の新造語である。しかし、従来の造語感覚からすれば、「無洗米」は「洗ってない米」であるはずである。たとえば、「無添加食品」は「添加の必要がない食品」の意味ではなく、「添加してない食品」の意味である。「無洗」を「洗う必要がない」とする新しい意味づけはどのようにして理解すればよいのだろうか。「無洗米」を「DⅢ.1 構造」と「DⅢ.2 時相」の両面から考えてみたい。

DⅢ.1 「無洗米」を構造の面から考える

DⅢ.1.1 無 漢語の「無」

まず、「無」の使い方について考えてみる。

「無」という詞は中国語から入った外来語である。外来語は日本語の中では基本的に名詞（実体）になる。名詞であるから、属性とは格関係を持つ。

名詞ではあるが、日本語の辞書では、さらに名詞と接頭辞の2種類に分類されている。たとえば、『日本語大辞典 第二版』の「無」の項では、次のように2種類に分類している。（構造的には接頭辞も名詞である。このことは DⅢ.1.接頭「無」を参照）。

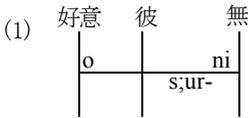
- [名詞] ①ないこと、存在しないこと。（以下省略）
- [接頭] 漢語の名詞の上に付けて、そのものが存在しないこと、その状態がないことを表わす。「無免許」「無資格」「無公害」「無修正」「無抵抗」「無理解」など。

DⅢ.1.名詞「無」 名詞の「無」

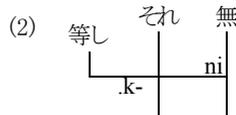
「無」が名詞として扱われる例としては次のものが考えられる。

- (1) 好意を無にする
- (2) それは無に等しい
- (3) 努力が無に帰す
- (4) 無から有を生ずる

「無」は名詞であるから、構造上では実体(名詞の縦棒)で表示される。(1)~(3)の各例では「無」は「に格」にある。(4)では「から格」にある。構造は下図のとおりである。



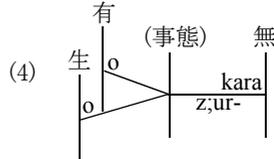
図DⅢ-1 (彼は)好意を無にする



図DⅢ-2 それは無に等しい



図DⅢ-3 努力が無に帰す

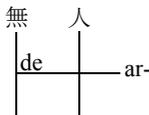


図DⅢ-4 (事態が)無から有を生ずる

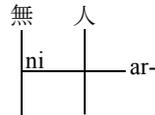
DⅢ.1.接頭「無」.a 接頭辞の「無」

「接頭辞」といわれる「無」を日本語構造伝達文法で捉えると、第4修飾法で名詞を修飾する名詞の「無」であり、これは構造上の **de格** や **ni格** にある。第4修飾法は記号「+」で表示する。この記号は無音で読まれる。(今泉 2003 :A16.1 参照)

たとえば、接頭辞「無」の使用されている「無人」であれば、構造は「人が無である」になっており、「無」は動詞 **ar-** の **de格** に立っている(下左図)。「人が無にある」のように「**ni格**」でも考えられる(下右図)。本稿では、より口語的な「**de格**」を中心に考察を進めることにする。



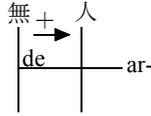
図DⅢ-5 人が無である



図DⅢ-6 人が無にある

これが「無人」のように描写(表現)される場合には、「無」が「人」を無音で修飾していることになる。構造上ではこの無音での修飾を矢印と「+」記号で示す(下図参照)。

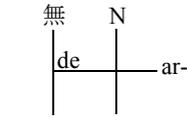
接頭辞の「無」は、このような第4修飾法で名詞を修飾する名詞としての「無」である。



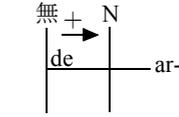
図DIII-7 [構造] 人が無である [表現] 無人 (無+人)

D III.1.接頭「無」.b 「無N」に一般化

「無人」の「人」のように、接頭辞の「無」に修飾されている名詞を一般化して捉えるために、「人」に当たる名詞を「N」に置き換えることにする。すると、「無人」は「無N」となる。このとき、Nは主格にあり、下右図のような構造表示となる。



図DIII-8 Nが無である



図DIII-9 無N

同じような「無N」の例として、次のものを挙げるができる。

- 無害，無関係，無休，無公害，無差別，無視，無資格，無修正，無色，
無職，無慈悲，無抵抗，無毒，無届け，無二，無認可，無能，無比，
無防備，無免許，無理解，無料

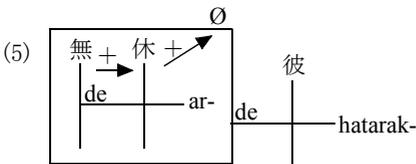
D III.1.接頭「無」.c 「無N」は名詞として使用される

ここにできた「無N」は名詞として使用される。

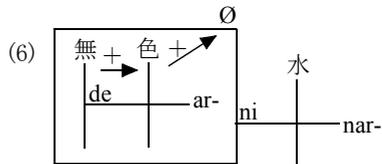
- (5) 無休で働く。(名詞「無休」が de格に立っている。)
(6) 無色になる。(名詞「無色」が ni格に立っている。)

(5)の「無休」は、「無休」が +で \emptyset の包含実体を修飾して名詞となっており、これが属性「働く」のde格に立っている(下左図)。

(6)の「無色」は、「無色」が +で \emptyset の包含実体を修飾して名詞となっており、これが属性「働く」のni格に立っている(下右図)。

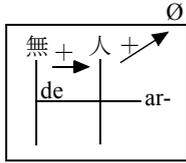


図DIII-10 (彼 \emptyset_1)は無休で働く

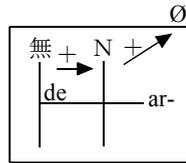


図DIII-11 (水が)無色になる

このように「無N」は、+で \emptyset の包含実体を修飾して名詞となる。ここにできる「無休」や「無色」，「無人」などの名詞を「無N名詞」とよぶことにする。



図DIII-12 名詞「無人」



図DIII-13 「無N」名詞

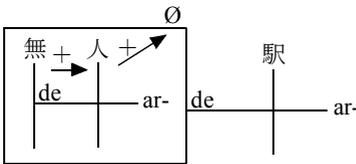
DIII.1.接頭「無」,d 「無N」名詞の構造上の位置

この「無N」名詞は、次の①～③のように使用・表現される。

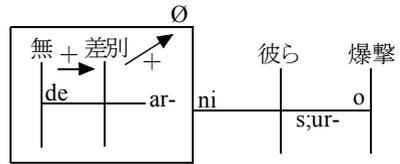
①「無N」名詞が、ある動詞と格関係にあることをそのまま格で表現

駅₁は無人_{de}ある。

彼ら₁は無差別_{ni}爆撃する。



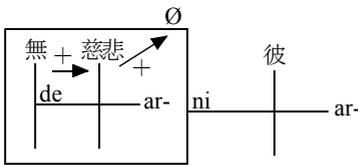
図DIII-14 駅は無_{de}人_{de}ある



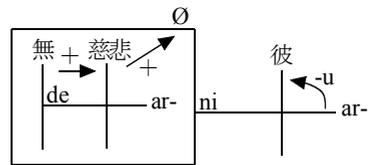
図DIII-15 彼らは無_{ni}差別_{ni}爆撃する

「無慈悲」のように、動詞ar- の、様態を表すni格に立つ「無N」名詞は、名詞を修飾するときは「無慈悲な」という、-na (-ni=ar-u)の形で表現(描写)される。

彼₁は無慈悲_{ni}ある。 → 無慈悲_{na}彼 (無慈悲 ni ar-u 彼)

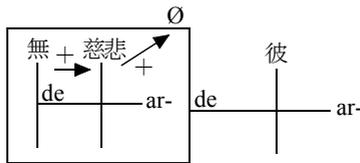


図DIII-16 彼は無慈悲にある



図DIII-17 無慈悲な彼 (ni ar-u)

言い切りの形で描写(表現)するときは、de格になる。

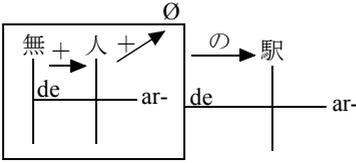


図DIII-18 彼は無慈悲である 彼は無慈悲だ (de ar-u)

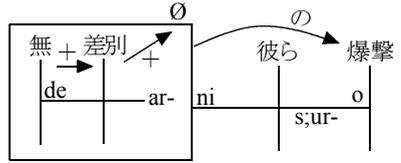
② 「無N」名詞が、関係の名詞を「の」で修飾

無人 no 駅

無差別 no 爆撃



図DⅢ-19 無人no駅

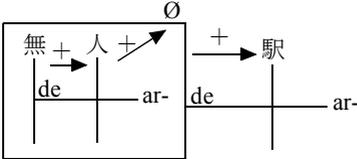


図DⅢ-20 無差別no爆撃

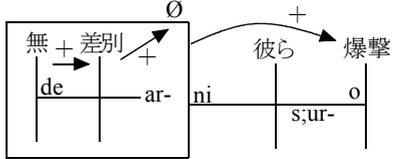
③ 「無N」名詞が、関係の名詞を「+」で修飾

無人+駅

無差別+爆撃



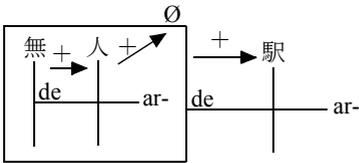
図DⅢ-21 無人+駅



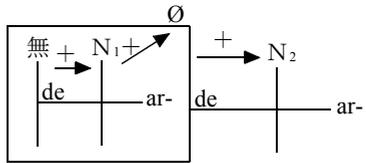
図DⅢ-22 無差別+爆撃

この③の場合、語の形の上では、「無人 駅」のように、「無N」名詞の後に別の名詞が続いている。このことを「無N₁N₂」と表示することにする。

「無人」駅 → 「無N₁N₂」



図DⅢ-23 無人駅



図DⅢ-24 「無N₁N₂」

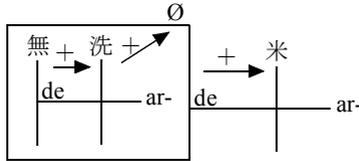
DⅢ.1.接頭「無」.e 「無」は日本語構造伝達文法では「詞」

国語文法では「接頭辞」とされている「無」も、日本語構造伝達文法の定義……形態素(意味を持つ最小の単位)を「詞」とする……に従えば、「詞」である。「辞」とよぶのは、形態素のうち、形容辞(k-)や動辞(r-/mek-)のような、それだけでは構造上に存在せず、必ず詞と融合して存在するものである。(今泉 2012 〈7.2, 8.1〉参照。)

それで、たとえば「無人駅」の「無」は、構造上では実体(名詞)として存在するので、「辞」でなく、「詞」である。つまり、「無N₁N₂」の「無」は接頭「詞」である。

DⅢ.1.接頭「無」f 「無洗米」の構造

このように見てくると、「無洗米」は、上の③の構造として捉えられることが分かる。



図DⅢ-25 「無洗米」の構造

これで、「無洗米」という語は構造上は問題のない語であることになる。

DⅢ.2 「無洗米」を時相の面から考える

次に、「無N₁」N₂におけるN₁とN₂の時間関係のあり方を考えてみたい。「時相」の面であるが、「相」よりは「時」での、さらには「相対時」での関係である。「無洗米」の「洗」と「米」の相対時的あり方について検討する。

DⅢ.2.1 ウゴキ名詞、モノ・コト名詞

N₁もN₂も、共に名詞である。しかし、「無洗米」（「無洗」米）のように、「洗」は動作を示す名詞であり、「米」はモノを示す名詞である。それで、本稿では、名詞を「ウゴキ名詞」と「モノ・コト名詞」に分けて扱うことにする。

【ウゴキ名詞】

「無N₁」N₂がたとえば、「無届け」デモである場合、この表現を理解するとき
届けないで、するデモ／デモをする N₁しないで、するN₂ / N₂をする
のようになる。この例のように、「する」等をつけたりして、ウゴキとして理解するNを「ウゴキ名詞」ということにする。

ウゴキ名詞の示すウゴキは、以前・以後等の相対時制や、開始・終了等の局面があるので、ウゴキ名詞は時間の中に位置付けやすい。

ウゴキ名詞は、図示では □ で示すことにする。存在しないことは破線で示す。

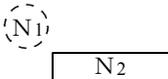
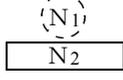
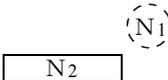
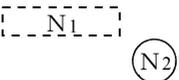
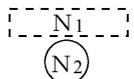
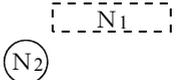
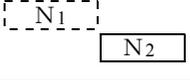
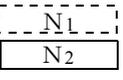
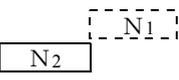
【モノ・コト名詞】

「無N₁」N₂がたとえば、「無色」透明である場合、この表現を理解するとき
色がなく、透明である N₁がなく、N₂である
のようになる。この例のように、「～がない」、「～である」をつけて理解するNを「モノ・コト名詞」ということにする。モノ・コト名詞はモノやコトの名前であり、時間の中には位置付けにくいだが、本研究では敢えて位置付けを試みる。

モノ・コト名詞は、図示では ○ で示すことにし、存在しないことは破線で示す。

「無N₁」N₂のあり方をこのような「ウゴキ名詞」と「モノ・コト名詞」で捉えて、時間的あり方を一覧表の形にすれば、表DⅢ-1のようになる。

表DⅢ-1 無N₁とN₂の時間関係 (名詞の種類別組合せに着目)

| | N ₁ | N ₂ | 時間関係と意味 | 時間関係の図 / 語例 |
|---|----------------|---|--|---|
| A | モノ・コト | モノ・コト | なし(性質)(同時) N ₁ がないN ₂ |  「無医」村 |
| B | | ウゴキ | 無N ₁ がN ₂ より前 N ₂ する前の、ないN ₁ |  例なし |
| C | | | 同時 N ₁ がなくN ₂ する |  「無資格」診療 |
| D | | | 無N ₁ がN ₂ より後 N ₂ した後の、ないN ₁ |  例なし |
| E | ウゴキ | モノ・コト | 無N ₁ がN ₂ より前 N ₁ をしてないN ₂ |  「無添加」食品 |
| F | | | 同時 同時のN ₁ しないN ₂ |  「無煙」たばこ |
| G | | | 無N ₁ がN ₂ より後 N ₂ の後でN ₁ をしない |  「無洗」米 |
| H | | | 無N ₁ がN ₂ より前 N ₁ をしてなくてN ₂ する |  「無届け」デモ |
| I | | | 同時 同時のN ₁ せずにN ₂ する |  「無着陸」飛行 |
| J | ウゴキ | 無N ₁ がN ₂ より後 N ₂ してN ₁ をしない |  「無銭」飲食 | |

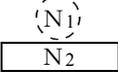
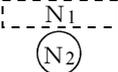
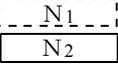
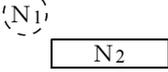
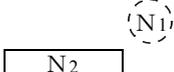
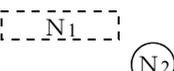
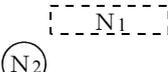
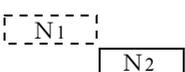
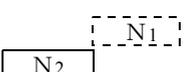
※ 「無駄」金のような「無駄」について、『日本国語大辞典 第二版』にはこうある。

「むな(空)」の変化とも、擬態語からともいうが未詳。

つまり、「無駄」は「むな」という形態素への当て字である可能性があり、構造的には「駄」というものが「無」であるわけではない。「駄」は「無N₁」N₂のN₁ではない。それで本稿では「無駄」を扱わない。(「無駄金」「無駄話」などは、たとえば、「むな金」,「むな話」と理解すべきものである。)

前の表は、名詞の種類別組合せに着目して作成したものであるが、これを「同時」「時差あり」の区別で、改めて項目を整理すると次表ようになる。今後の説明は、この表の番号に従って進める。

表DⅢ-2 無N₁とN₂の時間関係（同時、時差ありの区別に着目）

| 本表 | 前表 | 時間関係 | N ₁ | N ₂ | 時間関係の図 | 語例 |
|----|----|--|--|---|---|---------|
| 1 | A | 同時 | モノ・コト | モノ・コト |  | 「無医」村 |
| | | | 「N ₁ がない」N ₂ | | | |
| 2 | C | | モノ・コト | ウゴキ |  | 「無資格」診療 |
| | | | 「N ₁ がなく」N ₂ する | | | |
| 3 | F | ウゴキ | モノ・コト |  | 「無煙」たばこ | |
| | | 「同時のN ₁ しない」N ₂ | | | | |
| 4 | I | ウゴキ | ウゴキ |  | 「無着陸」飛行 | |
| | | 「同時のN ₁ せずに」N ₂ する | | | | |
| 5 | B | 時差あり | モノ・コト | ウゴキ |  | 例なし |
| | | | N ₂ する前の、「ないN ₁ 」 | | | |
| 6 | D | | モノ・コト | ウゴキ |  | 例なし |
| | | | N ₂ した後の、「ないN ₁ 」 | | | |
| 7 | E | | ウゴキ | モノ・コト |  | 「無添加」食品 |
| | | | 「N ₁ をしてない」N ₂ | | | |
| 8 | G | | ウゴキ | モノ・コト |  | 「無洗」米 |
| | | | N ₂ の後に「N ₁ をしない」 | | | |
| 9 | H | | ウゴキ | ウゴキ |  | 「無届け」デモ |
| | | | 「N ₁ をしてなくて」N ₂ する | | | |
| 10 | J | ウゴキ | ウゴキ |  | 「無銭」飲食 | |
| | | N ₂ して「N ₁ をしない」 | | | | |

DⅢ.2.2 「無N₁」N₂のあり方

本節では、「無N₁」N₂のあり方を、表DⅢ-2の番号順に検討し、例を挙げる。例は、『日本語大辞典 第二版』を中心に、数冊の辞書(参考文献参照)から収集した、現代語の例である。挙げてある例の中のN₁、N₂がモノ・コト名詞、ウゴキ名詞のどちらに属するかの判断は微妙なところもある。語によっては異なる判断も可能である。

[同時]-----

1 「N₁がない」N₂ 「無医」村

- 「モノ・コトがない」モノ・コト
- ・「無N₁」(N₁の存在しないこと)が
- N₂(モノ・コト)の性質を示す

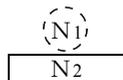


「無医」村……この村には医師がいない。 図DⅢ-26

「無韻」詩, 「無鉛」ガソリン, 「無塩」醤油, 「無蓋」貨車, 「無記名」債権,
 「無菌」室, 「無形」文化財, 「無限」集合, 「無国籍」料理, 「無産」階級,
 「無色」透明, 「無重力」状態, 「無神」論, 「無毒」フグ, 「無人」島,
 「無水」アルコール, 「無声」映画, 「無政府」状態, 「無精」卵, 「無線」電話,
 「無定形」物質, 「無定型」短歌, 「無敵」艦隊, 「無糖」練乳, 「無土器」文化,
 「無任所」大臣, 「無能力」者, 「無配」株, 「無敗」記録, 「無風」地帯,
 「無分別」者, 「無報酬」役員, 「無味」ガム, 「無名」戦士, 「無銘」刀

2 「N₁がなく」N₂する 「無資格」診療

- 「モノ・コトがなく」ウゴキをする
- ・「無N₁」(N₁の存在しないこと)が
- N₂(ウゴキ)の性質を示す

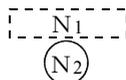


「無資格」診療……資格がなく診療をする。 図DⅢ-27

「無期」懲役, 「無給」研修, 「無気力」相撲, 「無性」生殖, 「無罪」放免,
 「無償」行為, 「無条件」降伏, 「無人」探査, 「無病」息災, 「無線」操縦,
 「無責任」発言, 「無担保」融資, 「無店舗」販売, 「無免許」運転, 「無理」やり,
 「無料」奉仕, 「無力」感

3 「(同時の)N₁しない」N₂ 「無煙」たばこ

- 「同時のウゴキをしない」モノ・コト
- ・「無N₁」((同時の)ウゴキのないこと)が
- N₂(モノ・コト)の性質を示す

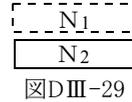


「無煙」たばこ……煙が出ないたばこ。 図DⅢ-28

「無影」灯, 「無汗」症, 「無感」地震, 「無所属」議員, 「無水」鍋, 「無制限」台,
 「無税」品, 「無抵抗」市民, 「無党派」層, 「無得点」試合, 「無伴奏」曲,
 「無法」地帯, 「無防備」都市, 「無用」物

4 「同時のN₁せずに」N₂する 「無着陸」飛行

- 「同時のウゴキ1をしなくて」ウゴキ2をする
- ・「無N₁」(同時のウゴキのないこと)が
N₂(ウゴキ)の性質を示す



図DIII-29

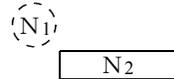
「無着陸」飛行……(飛行するときに,)着陸しないで飛行する。

「無休」営業, 「無血」革命, 「無言」劇, 「無作為」抽出, 「無差別」爆撃,
「無水」料理, 「無銭」旅行, 「無灯」運転, 「無批判」受容, 「無謀」運転,
「無油」調理

[時差あり]-----

5 「N₂する前の」ないN₁

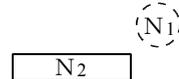
- ウゴキをする前に「モノ・コトがない」
 - ・「無N₁」(前もって存在のないこと)が
N₂(ウゴキ)の性質を示す
- この例は見つかっていない。



図DIII-30

6 N₂した後の「ないN₁」

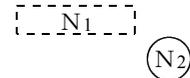
- ウゴキをした後に「モノ・コトがない」
 - ・「無N₁」(後で存在のないこと)が
N₂(ウゴキ)の性質を示す
- この例は見つかっていない。



図DIII-31

7 「N₁をしてない」N₂ 「無添加」食品

- 「前もってウゴキをしていない」モノ・コト
- ・「無N₁」(前もってウゴキのないこと)が
N₂(モノ・コト)の性質を示す



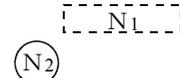
図DIII-32

「無添加」食品……この食品は, 前もって何かを添加していない。

「無殺菌」牛乳, 「無事故」車, 「無定義」用語, 「無認可」保育所

8 N₂の後に「N₁をしない」 「無洗」米

- モノ・コトの後に「ウゴキをしない」
- ・「無N₁」(後でウゴキのないこと)が
N₂(モノ・コト)の性質を示す

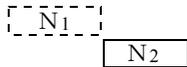


図DIII-33

「無洗」米 ……「無洗米」という商品があって, この米はあとで洗わない。

ほかの例は見つかっていない。

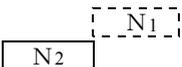
9 「N₁をしてなくて」N₂する 「無届け」デモ

- 「前もってウゴキ1をしないで」ウゴキ2をする 
- ・「無N₁」(それ以前のウゴキのないこと)が N₂(ウゴキ)の性質を示す 図DⅢ-34

「無届け」デモ……前もって届けをしないで、デモをする。

「無加熱」摂取, 「無記名」投票, 「無試験」入学, 「無断」欠席, 「無賃」乗車, 「無投票」当選

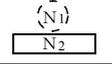
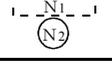
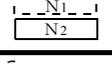
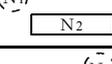
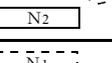
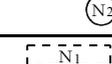
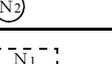
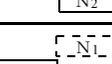
10 N₂して「N₁をしない」 「無銭」飲食

- ウゴキ2をして「ウゴキ1をしない」 
- ・「無N₁」(それ以後のウゴキのないこと)が N₂のウゴキの性質を示す 図DⅢ-35

「無銭」飲食……飲食をして、料金を払わない。(料金後払いの場合)

ほかの例は見つかっていない。

表DⅢ-3 無N₁とN₂の時間関係のまとめ (例の語の有無に着目)

| 番号 | 時間関係 | 時間関係図 | 語例 | 例の数 |
|----|------|---|--|------|
| 1 | 同時 |  | 「無医」村 「無韻」詩, 「無鉛」ガソリン, 「無塩」醤油, 「無蓋」貨車 | 多数 |
| 2 | |  | 「無資格」診療 「無期」懲役, 「無給」研修, 「無気力」相撲, | 多数 |
| 3 | |  | 「無煙」たばこ 「無影」灯, 「無汗」症, 「無感」地震, 「無所属」議員 | 多数 |
| 4 | |  | 「無着陸」飛行 「無休」営業, 「無血」革命, 「無言」劇, 「無作為」抽出 | 多数 |
| 5 | 時差あり |  | | 0 |
| 6 | |  | | 0 |
| 7 | |  | 「無添加」食品 「無殺菌」牛乳, 「無事故」車, 「無定義」用語 | 若干 |
| 8 | |  | 「無洗」米 | 1例のみ |
| 9 | |  | 「無届け」デモ 「無加熱」摂取, 「無記名」投票, 「無試験」入学 | 若干 |
| 10 | |  | 「無銭」飲食 | 1例のみ |

DⅢ.2.3 「無N₁」N₂のあり方……結論

以上、表DⅢ-2の番号に従ってN₁とN₂の時間的關係のあり方を見てみた。その際に例となる語を示したが、その例の語の有無について表DⅢ-3に整理してみた。結果として判明したことは次のようなことである。

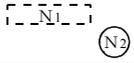
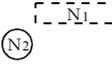
- (1) 「無N₁、N₂が同時」の場合(1~4)には例が多いことから、「無N₁」N₂は「同時」の場合に使用されることが多いであろうということが分かった。
- (2) 「無N₁、N₂に時差あり」の場合は、
- (2a) 7と9に例がある。7、9は共にウゴキとしてのN₁が事前でない場合である。つまり、「無N₁」N₂は、「時差あり」ではウゴキとしてのN₁がN₂の事前でない場合に使用されるであろうということが分かった。
- (2b) 8と10は、ウゴキとしてのN₁が「事後」でない場合で、1例ずつしか例がない。しかも、8では「無洗米」がその例である。
- (2c) 5と6には例がない。つまり、「無N₁」N₂は、「モノ・コトがウゴキの前にも後にも存在しない」ということは表さないということである。

DⅢ.3 「無洗米」という語の理解

「無洗米」という語の違和感は何ぞ生じるのか。本研究では、この問題を考えるために、「(1)構造」と「(2)時相」の面から検討してみた。

- (1) 構造の面からは特に問題がないことが判明した(DⅢ.1参照)。
- (2) 時相の面からは、次のようなことが判明した。
- (2a) 「無洗」米は、N₁の「洗」がウゴキ名詞で、N₂の「米」がモノ・コト名詞である。それで、その組合せは表の3番、7番、8番のいずれかとなる。(図示では、ウゴキ名詞が□、モノ・コト名詞が○である。それが存在しないことは破線で示す。)

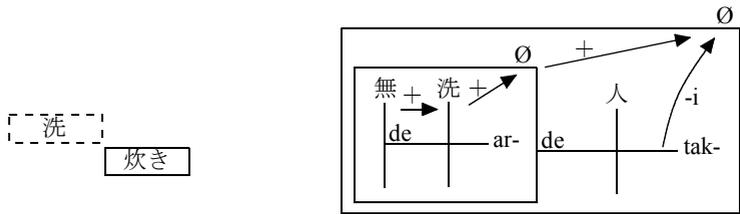
表DⅢ-4 無N₁とN₂の時間関係 (3,7,8番の取り出し表)

| 番号 | 時間関係 | 時間関係図 | 例の数 |
|----|------|---|---------|
| 3 | 同時 |  | 多数 |
| 7 | 時差あり |  | 若干 |
| 8 | 時差あり |  | 「無洗米」のみ |

- (2b) 「無洗」米は、意味を考えると、「この米は、炊くときに洗う必要がない」ということであるから、「無洗」は「いま」のことではなく、以後のことである。ということは、上の表の3(同時)には該当しない。
- (2c) それで、「無洗」米は、時差ありの7か8に該当することになるが、従来の

表現体系では「無洗米」という形は 7 で使われる形であったのであり、意味は「洗ってない米」として理解されるのが当然のことであった。その状況で、「無洗米」が、以前は使用されていなかった 8 で新しく使用されるようになり、表現される前後関係が逆になった。ここに違和感が生じることになった。……このことが判明したことで、なぜ違和感が生じたかの理由を解明するという本研究の目的が達せられたことになる。

- (2d) 新たに 8 が造語法として使用されるようになったわけだが、この 8 の使用が、この例だけで終るのか、それとも今後も引き続き新しい造語法となって、新語を生み出していくものなのか、注視したい。
- (2e) とここで、このような違和感を生じさせることなく、「無洗米」という語が表現したいことと同じことを表現することはできるのだろうか。表を見ると、時差ありの場合、従来の表現体系では、7 以外だと 9 が使用されている。ただし、9 では共にウゴキ名詞であり、N₁ が前で、N₂ が後である。……それで、従来の表現体系のもとでは「無洗」炊き のようにすればよいことになる。



図DIII-36 「無洗」炊き (時間関係)

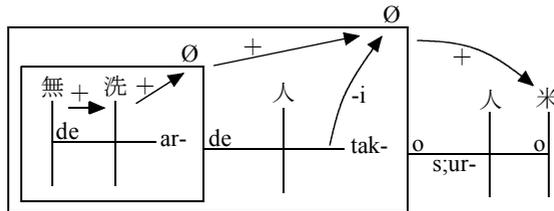
図DIII-37 「無洗」炊き (構造)

こうすれば、従来の表現体系の中での表現となり、違和感が生じないことになる。さらにこれで「米」を修飾すれば次のようになる。

「無洗」炊き+米

(「無洗炊き」をする米)

構造はこのようになる。



図DIII-38 「無洗」炊き米

(「無洗炊き」をする米)

無+洗+Ø-de tak-i=Ø-o s;ur-u 米
(dak-)

「無洗米」は、「無洗炊き」とすれば違和感はなくなくなることになる。「米」を修飾させて、「無洗炊き+米」としてもよい。(「無洗炊飯」も可能か。「無洗炊飯+米」も、同義反復に目をつぶれば可能か。)

(2f) 上の (2d) に関連するが、洗わないで食べられるトマトがあるという。これは 8 の新造語法による「無洗米」に続く第2弾として、「無洗 トマト」と表現されるようになるのだろうか。それとも、違和感の生じない、従来の表現法による「無洗 食 トマト」になるのだろうか。

DⅢ.4 今後の課題として……意味否定と構造否定……日本語と原語の構造

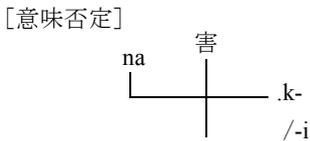
「無」の扱いは以上に示したとおりであるが、同じく否定を表す「不、未、非、否」などはどう扱えばよいのだろうか。日本語の中では外来語だから基本的に名詞として扱うことになると思うが、中国語の中ではどのような扱いになっているのだろうか。これを解明することが今後の課題となる。

「無」は日本語では意味否定

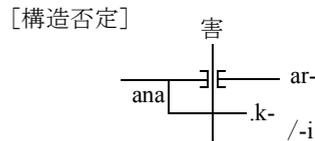
「ない」は日本語の否定形式であるが、この「ない」には、非存在を表す「ないna.k-」(形容詞)と、動詞否定の「ない -(a)na.k-」(否定詞)がある(今泉 2017 :U6.2, 今泉 2012 : 32.3, 32.4, 第 26 章)。前者を「意味否定」と捉え、後者を「構造否定」と捉えることができる。どちらも、ひらがなで書けば、「ない」である。

たとえば、「害がない」というとき、非存在を表す「ない」が使用されている場合(意味否定)と、「ある」の否定の「ない」が使用されている場合(構造否定)がある。

[意味否定] 「害」が「ない」という非存在を表す属性を持つ場合には、構造は下左図のようになっている。



図DⅢ-39 害がない

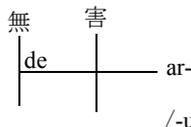


図DⅢ-40 害が(あ)らない

両者は似た意味だが、このように異なる構造を持っている。

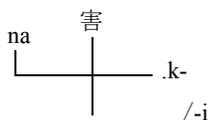
※na.k- も -(a)na.k- も、後に -i が続くときは、k は発音されない。(今泉 2012, 第8章, 今泉 2015:p.13)

では、「無」というのは、どちらの構造になるのだろうか。……「無害」というのは、「害が無である」という「害」の非存在を表すのだから、これは動詞ar-の否定ではない。



図DⅢ-41 害が無である

つまり、「無」は上左図の非存在の「ない」と似た構造と考えられる。



図DⅢ-42(=-39) 害がない

日本語では、「無」は構造上の動詞を否定することはない。つまり、「無」は構造否定をするのではなく、意味否定をしている、といえる。

日本語と原語の構造上のあり方は？

「無」を中国語の構造において捉えるとどのようになるのか。構造否定をしているのか。また、「不、未、非、否」なども否定を表すが、これらは日本語と中国語の構造においてどのように理解すればよいのか。そしてさらに、英語の「ノー」「no, not」はどのように把握できるのか。

日本語と原語の中での構造上のあり方を明らかにする必要がある。しかし、これらは大きな問題なので、改めて研究をする必要がある。

DⅢ参考文献

- 今泉喜一 2003 『日本語構造伝達文法 発展A』 揺籃社
 今泉喜一 2012 『日本語構造伝達文法』 [改訂12年版] 揺籃社
 今泉喜一 2014 『主語と時相と活用と —日本語構造伝達文法・発展C—』 揺籃社
 今泉喜一 2015 『日本語のしくみ (1) —日本語構造伝達文法文法S—』 揺籃社
 今泉喜一 2016 『日本語のしくみ (2) —日本語構造伝達文法文法T—』 揺籃社
 今泉喜一 2017 『日本語のしくみ (3) —日本語構造伝達文法文法U—』 揺籃社
 木村泰介 2014 「動詞連用形の名詞化・名詞修飾」 『主語と時相と活用と —日本語構造伝達文法・発展C—』 C5.12 (今泉喜一著) 揺籃社

『日本国語大辞典 第二版』 北原保雄ほか編 2000～2002 小学館

『岩波 国語辞典 第7版』 西尾実ほか編 2014 岩波書店

『学研 現代新国語辞典 改訂第三版』 金田一春彦・編 2002 学習研究社

『新明解国語辞典 第七版』 山田忠雄ほか編 2012 三省堂

『明鏡国語辞典 第二版』 北原保雄・編 2010 大修館書店



研究者紹介 木村泰介 Taisuke Kimura

略歴: 1997年 杏林大学外国語学部日本語学科に入学

3年次より今泉ゼミで研究

2001年 卒業後米系コンピュータ製造企業に就職（マーケティング業務）

その後いくつかの米系ソフトウェア企業でマーケティング業務

現在 仕事の傍ら、日本語構造伝達文法の研究会で研究を継続中

日本語構造伝達文法との関わり: 杏林大学・日本語学科の3年次に今泉ゼミでこの文法の考え方を学ぶ。自分では特に動詞連用形の名詞化・名詞修飾について考察し、「サンマの塩焼き」を題材に、「動詞連用形の名詞化・名詞修飾」と題する卒業論文を書いた。その内容は、『主語と時相と活用と -日本語構造伝達文法 発展C-』の C5.12 に掲載されている。

今回の論文について: この「無洗米」のテーマについては、八王子での文法研究会で3年ぐらい前から研究を発表。今泉先生を始め、いろいろな方から参考となる発想や意見をいただいた。

今後の研究予定: 否定の接頭辞と考えられる「未」について、「無」との異同、否定の対象は何か、そもそも否定ではないのか、など、掘り下げて考察したいと考えている。過去の分析や他分野における考察なども参考にしつつ、日本語構造伝達文法の理論を発展させる方向で考察を進められればと思う。

メールアドレス: tsk.kmr@gmail.com